



特 許 願

① 日本国特許庁

公開特許公報

昭和50年 7月14日

特許庁長官 殿

1. 発明の名称 船首を水平高速水カーテンとする
3 高圧空気保存船
2. 発明者 特許出願人と同じ
3. 特許出願人

郵便番号

5 7 2 - □ □

住所 (居所) 東京都府中市馬場町1番3号
氏名 (法人に就ては代表者の氏名) 金井 豊

4. 添付書類の目録

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 明細書 | 1 通 |
| (2) 図面 | 1 通 |
| (3) 願書副本 | 1 通 |
| (4) 発明の概要 | 1 通 |

50 086323



① 特開昭 52 - 11594

④ 公開日 昭52. (1977) 1.28

② 特願昭 50-86323

② 出願日 昭50. (1975) 7.14

審査請求 未請求

(全2頁)

庁内整理番号

7403 36

⑤ 日本分類

84 B4

⑤ Int. Cl²

B63B 1/38

明 細 書

1. 発明の名称

船首を水平高速水カーテンとする高圧空気保存船

2. 特許請求の範囲

船の船首部分を水平高速水カーテンに置き代えることにより、前面より受ける波の抵抗は減少し、しかも波は内部高圧空気に押されて下降し、船底部分で釣合状態になり、内部高圧空気を保存する、つれて船首および船底部分は空気摩擦に代る等、進行する船の抵抗が減少することと特徴とする船首を水平高速水カーテンとする高圧空気保存船。

3. 発明の詳細な説明

この発明は船首部分を水平高速水カーテン(高速水を管に導き出し、出口を薄く短形状にする、水はカーテン状に薄く出て噴出する、こ

のカーテン状の水を図面3の様にほぼ水平に設置したもので、以下水平高速水カーテンと云う)にすることにより内部の高圧空気のもれを防ぎつれて船底も高圧空気にするにより、進行する船の抵抗を減少させ効率化をはかるものである。

進行する船の正面より受ける船首の水抵抗部分を水平高速水カーテンに代えることにより、ほぼ波と水平に接することになり、抵抗は減少(船首の波に接する角度が浅い程抵抗は減少する)する又、船の内部に送った高圧空気を逃げない様に防ぐことになり、船底部分の高圧空気も逃げないものである。

水平高速水カーテン(図面3)は内部高圧空気(図面7)の圧力を受けるが補助たれ(図面8)とともに、この圧力を防いで逃がさない、又波は水平高速水カーテンと接した後内部高圧空気に押されて下降し船底水位で船底部分は釣合状態と

BEST AVAILABLE COPY

なり内部高圧空気(図面7)を保存することになる。

以上により船が進むことにより受ける船首部分の抵抗は減らし、かつ船首と船底部分は空気摩擦となり、しかも内部高圧空気が船外に逃げないことを特徴とする。

尚この船は安定が悪いため三輪車の車輪の様に三台一組として固定して安定させる、又はこの船を二台三台と横にならべて固定し幅の広い船にし更にこの幅の広い船を二台前後に連結して固定する等安定化して実用化する。

図面の補足説明

図面1は高速水を送るよう入口(高速水を送る装置は図面省略)

図面2は高圧空気よう入口(高圧空気送風装置は図面省略)

図面3は高速水(水平高速水カーテン)

図面4は船の側面板

図面5は高圧空気をもう入し高速水を噴射しながら船が進んでいる時の水の状態および高圧空気と水の境界線

図面6は波の位置

図面7は高圧空気

図面8は図面3の補助板(ハガネの薄い板で高速水の出口に固定接続する、尚このハガネは高速水カーテンを補強するもので、内部より受ける高圧空気の圧力は耐えかつ前面より受ける波の衝撃をある程度吸収出来る柔軟性を要す)

図面9は波の下り止め板(波は高圧空気によって押されて下がるが船底水位より下りすぎるとを防ぐ作用をする)

4 図面の簡単な説明

第一図は平面図、第二図は第一図におけるA-A線での断面図、第三図は正面図。

